2012 年度報告書（研究員）

| 氏　名 | 舟橋　健太 |
|---|---|
| 職　位 | 短時間研究員 |

研究概要

本年度は、日本学術振興会「頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」（人間文化研究機構・現代インド地域研究「現代南アジア研究の国際的ネットワークの形成」）に基づく海外における調査研究が主たる活動になった。8 月～9 月、ならびに、12 月～3 月のインド滞在・調査研究に加え、10 月にはエジンバラ大学（イギリス、スコットランド）での国際ワークショップにおいて研究発表、および、12 月にはジャプフ・クリスチャン大学（インド、ナガランド州コヒマ）での国際シンポジウムにおいて研究発表を行った。

前者は、マイノリティと社会運動を主テーマに、また後者は、社会的排除と包含をテーマに、それぞれ開催されたが、研究員自身は、北インドにおける「改宗仏教徒」の宗教儀礼実践や語りの分析から、他者関係をいかに交渉しつつ生を送っているか、考察・発表を行った。これらの考察から、特に南アジア（インド）社会におけるマジョリティとマイノリティの関係性、「市民社会」や公共圏、親密圏のありように関して、発展的に検討を行ったものである。

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

［著書］

１．舟橋健太、「ジャート〈ウッタルプラデーシュ州〉――土地とともに生きる」、「改宗仏教徒とカースト〈ウッタルプラデーシュ州〉――平等を求めて」「【コラム 9】アンベードカルとカースト」、金基淑編著『カーストから現代インドを知るための 30 章』明石書店（2012）。

２．舟橋健太、「ネオ・ブッディズム」、世界宗教百科事典編集委員会編（編集委員長 井上順孝）『世界宗教百科事典』、丸善出版株式会社（2012）。

［報告］

１．舟橋健太、「近現代インドの仏教にみる「社会性」―B. R. アンベードカルの仏教解釈から現代インドの仏教改宗運動まで」、テーマセッション「社会参加を志向する宗教の比較研究―エンゲイジド・ブッディズム（社会参加仏教）を考える」、「宗教と社会」学会・第 20 回学術大会、2012 年 6 月 17 日、於：長崎・長崎国際大学。

２．Kenta Funahashi, "Living as a 'Minority': A Case of Buddhist-Dalits in Contemporary Uttar Pradesh", Japan-EdinburghWorkshop, "Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia", October 17, 2012, University of Edinburgh, Edinburgh, UK.

３．Kenta Funahashi, "Excluding Themselves?: Dalits Converting to Buddhism", International Conference, "Looking beyond the State: Changing Forms of Inclusion and Exclusion in India", December 21, 2012, Japfü Christian College, Kohima, India.